

平和祈念展示資料館 特別展示

シベリア抑留絵画展

冬と夏を描く

入場無料



関豊〈朔風〉

九段生涯学習館2階 九段ギャラリー

(東京都千代田区九段南 1-5-10)

令和元年

9.25[水] → 10.1[火]

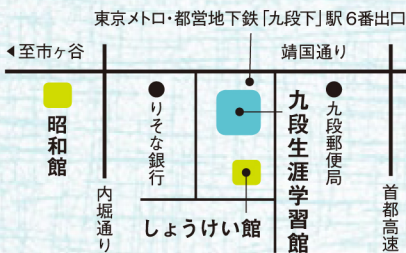
9:00 - 18:00

主催：平和祈念展示資料館(総務省委託)

後援：千代田区

協力：昭和館、しょうけい館

田中武一郎〈死骸を運ぶ〉



会場アクセス

東京メトロ東西線・半蔵門線、

都営地下鉄新宿線「九段下」駅下車 6番出口前

※九段生涯学習館には駐車場がありません。近隣のコインパーキングをご利用いただくか、公共交通機関でご来場ください。

冬と夏を描く

入場
無料



古田卓造《ハバロフクの街角》



佐藤清《戦場の花》



四國五郎《丸太運び》



横尾淳《冬の収容所》



田中武一郎《伐採》

終戦後、シベリアをはじめとする旧ソ連やモンゴルの酷寒の地において、乏しい食料と劣悪な生活環境の中、過酷な強制労働に従事させられた“戦後強制抑留者”は約60万人にのぼります。そのうち、約6万人が栄養失調や伝染病などで亡くなりました。

生きて帰国を果たした抑留体験者の中には、抑留の事実を後世に伝えるため、あるいは亡くなった戦友の鎮魂のため、自身の体験を絵画に残した人たちがいます。

シベリアの冬は長く、10月から5月のはじめ頃まで続きます。そのため、多くの作品には、雪や氷に覆われた厳しい寒さが描かれています。一方で短い夏の季節を描いた作品もあります。野草やキノコ、ジャガイモなどの収穫がある夏は、抑留者にとって心安らぐ季節でした。

本展では、シベリアの凍てつく冬と短い夏の情景を描いた作品を紹介し、抑留者たちが過ごした季節をたどります。

昭和館、しょうけい館との連携企画

九段生涯学習館に近接している昭和館、しょうけい館では、この特別展示と連携した企画を実施します。

昭和館

ニュースシアター(1階)での抑留・引揚げに関するニュース映画等の上映のほか、図書室(4階)では、関連書籍の紹介コーナーを設置します。

千代田区九段南1-6-1 Tel:03-3222-2577

しょうけい館

シベリア抑留を経験された戦傷病者の手記などの関連図書を、2階の特設コーナーで紹介します。

千代田区九段南1-5-13 ツカキスクエア九段下
Tel:03-3234-7821